〈寄宿舎〉

＜研究テーマ＞

「児童生徒一人一人のやる気・主体性の成長を目指して」

～ PDCA サイクルを活用した支援方法の改善 ～

ア　テーマ設定の理由

全校研究のテーマを受け、寄宿舎では児童生徒一人一人が主体的な生活を送るための支援として PDCA サイクル表を作成し、それを日々の行動記録とリンクさせることにより、より良い支援方法を見付けることができるのではないかと考えた。そこで、PDCA サイクル表を用いることで支援の観点と支援方法の統一化を図り、担当を中心に棟全体で児童生徒の課題・目標等を共有し、より効果的な支援を目指し、このテーマを設定することとした。

イ　研究計画

月	内　　容
4	・第１回全校研究会【４/24（水）】
5	・第１回研究会（全校研究会報告、２年次の方針の確認）　【５/１７（金）】 ・個別の生活指導計画《＊資料１》作成（前期）
6	・第２回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【６/１４（金）】
7	・第３回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【７/１９（金）】
8	・第４回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【８/２３（金）】
9	・第５回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【９/１３（金）】
10	・第６回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【１０/１１（金）】 ・個別の生活指導計画作成（後期）
11	・第７回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【１１/１５（金）】
12	・第８回研究会（PDCA シートの活用及び支援方法の改善）【１２/１３（金）】
1	・第９回研究会（２年次研究まとめ）　【1/２４（金）】
2	・第２回全校研究会　【2/6（木）】 ・第10回研究会（３年次研究について）　【2/１４（金）】

ウ　実践内容

【研究の進め方】

月	個別の生活指導計画の推進を含む取り組み	PDCA サイクル表を活用した取り組み
４～５	・棟毎に児童生徒の実態を把握し、児童生徒の課題及び支援の視点の共有化を図る。	・PDCA サイクル（表）を含む行動記録を、日々（毎日）の棟会で活用していく。
５～９	・前期の個別の生活指導計画を立てて実践する。【D⇒C⇒A】⇒【P】⇒【D⇒C⇒A】	・毎月の研究会で、ピックアップした児童生徒の支援方法について話し合う。
10	・前期のまとめをし、後期の計画を立てる。	
11～１	・前期のまとめを受けて、棟毎に児童生徒の課題及び支援の視点の共有化を図る。	・毎月の研究会で、ピックアップした児童生徒の支援方法について話し合う。
2	・全校研究会	・ピックアップした児童生徒の支援方法及び成果と課題についてまとめる。

個別の生活指導計画の目標の三領域（生活習慣、コミュニケーション・社会性、健康・安全）の中から、一人１項目ずつ主体性につながる目標を選択し、PDCA サイクル表を用いて、より効果的な支援を考えていくということで取り組んだ。

【中３男子】

遊んでいるときなどリラックスしている場面では自ら発言することもあるが、その他の場面では、日常的な挨拶も含め、スムースに声が出てこない傾向がみられる。	
P（目標）	・「場に応じた返事や挨拶、日常的に必要な事柄を伝えることができる。」（コミュニケーション・社会性）
D（支援内容・手立て）	・発言を待つ → 発言しやすいような働きかけ（＋簡単で分かりやすい文章）
C（支援の成果）	・話すことばを短い文章で可としたこともあり、自ら話せる場面が増えてきた。（『薬をください。』『〇〇に行ってきます』等） ・誰かが話をした後に続けて、『私も・・・』と話したり、手で体の横を叩いてタイミングを取りながら話したり等、本人なりに工夫を凝らしている様子がうかがえる。
A（課題等）	・一言で話すだけでなく、長い文章も取り入れていきたい。 ・遊びのときの高等部生への言葉づかい。

【高３男子】

・卒業後を意識した生活を送らせたい。 ・日常的に声量が低く、聞き取りにくい。	
P（目標）	・「場に応じた声量で話すことができる。」（生活習慣）
D（支援内容・手立て）	・『いただきます』の挨拶を当番とし、大きな声で話すことに慣れる。 ・多くの人の前で話す機会を増やすために、毎日の点呼時に棟長としてみんなの前で話をする。
C（支援の成果）	・食事の挨拶が聞こえないときにやり直しをすることで、声の大きさを意識できたのではないか。 ・点呼時の棟長挨拶ではパターン化した挨拶（『今日も頑張りましょう』）だったが、行事や天候などのキーワードを提示することによって話す内容が膨らんできた。
A（課題等）	・卒業に向け通学の回数を増やすため、取り組める日が減ってしまう。

【女子棟】

・特にピックアップはせず、全員を対象。

・PDCA サイクルではなく、児童生徒の主体性から出てくると思われる言動を行動記録から拾い出し、２週間単位で記録している。そのときの職員の対応も記入して棟で話し合い、今後の支援についても記入するようにしている（DCAP サイクル）。

エ　成果と課題

（ア）成果

・全員が揃って話し合う機会をもてたことにより、児童生徒の実態や支援方法について共通理解を深めることができた。

・話し合いの中で、主体性のキーワードを「気づいて動く」に替え、研究テーマについても大人目線から子ども目線に視点を変えた。

（イ）課　題

・個別の生活指導計画との関連性についての確認

・様式の検討・改善

オ　次年度に向けて

今年度行ってきた毎月の研究会は、児童生徒の様子や支援について全体で確認することができる貴重な時間であるため、来年度も今年度並みに確保することとした。次年度も話し合いを重ね共通理解を図りながら、PDCA サイクルを用い、色々な視点も取り入れながら、より主体的に子ども達が気付いて動くことができるよう、支援方法を検討していきたい。